

# テゼからの手紙 2004年

テゼのブラザー・ロジェによって書かれたこの手紙は、24のアジアの諸言語を含む57の言語に訳され、ハンブルグで開催されたヨーロッパ青年大会において公表された。この手紙は、2004年の年間を通じて、テゼで開かれる毎週の集いや世界のその他の場所で行われる様々な集いで、黙想のためのテキストとして用いられる。

## みなもと 喜びの源泉へ

**地**上の至るところで、数知れぬ若者たちが、平和、<sup>コミュニオン</sup>交わり、喜びへの<sup>あこが</sup>憧れを内に抱いています。

この若者たちは同時に、無実の人々の測り知れない苦しみに心を留めています。そして、この世界における貧困がますます悪化していることをよく知っています<sup>1</sup>。

世界の明日を築いていくのは、国家の指導者たちだけではありません。無名の、もっとも謙遜な人々が、平和と信頼の未来をもたらすために大きな役割を担うのです。

自分がどんなに無力に思えても、神は、わたしたちを対立のあるところに和解を、不安のあるところに希望を持ち運ぶ者にしてくださいます。神は、わたしたちが生き方によって、神の人類に対する深い<sup>コンパッション</sup>共感を映し出すようにと、招いておられるのです<sup>2</sup>。

若い人々が、どこにいても、もし平和に焦点を当てた生活を具体的に生きるならば、そこには光が輝き出します<sup>3</sup>。

**わ**たしはあるとき一人の若者に尋ねました。「人生の道を歩き続ける上で、あなたにとってもっとも重要なものは何ですか。」彼は答えました。「喜びと思いやりです。」

苦しみへの不安や恐れは、わたしたちから喜びを取り去ります。

福音から<sup>く</sup>汲み取られる喜びが、わたしたちの内では泉となって湧き出さなら、その喜びは新しい命の息吹をもたらします。

わたしたちがこの喜びを<sup>つく</sup>創り出すわけではありません。それは神からの贈り物です。そしてこの喜びは、神がわたしたちの命を見つめるその信頼の眼差しによって、日々新たにされていくのです<sup>4</sup>。

思いやりとは、何かぼんやりとした態度ではありません。それは、わ

1 内的生活を深めることは、今日の社会の状況に目を閉ざさせるところか、それについてよりよく知るようにわたしたちを招く。例えば、今日世界の54の国々が、1990年の状況よりも貧しくなっていることに気づいているだろうか。国連事務総長コフィ・アナンは、昨年パリで開かれたヨーロッパ大会に寄せて、わたしたちにこう書き送った。「世界では、多くの若者たちが将来への期待を奪われています。彼らにとっては、日々が飢えや病気や窮乏とのつらい闘いです。さらに、この若者たちの多くは、武力闘争の犠牲となっている地域に暮らしています。彼らに希望を与えるために、できる限りのあらゆることを行なわなければなりません。」

2 親愛なる教皇ヨハネ23世は1963年にこう記した。「すべての信者は、共に生きる人々の只中で、光のきらめきに、愛の中心に、命を与えるパン種になるべきです。神との<sup>コミュニオン</sup>交わりにより深く根ざして生きるならば、その人はより完全にそうなっていけるでしょう。実際に、一人一人の内なる平和がなければ、人類の平和もありえないのです。」(『パチエム・イン・テリス(地に平和を)』164-165)

3 使徒パウロは信徒たちに、世にあって星のように輝く「小さな光」になるように励ました。(フィリピ2:15-16参照)

4 「主が来られるとき、苦しんでいた人々は再び主において喜び祝い、貧しい人々は喜び踊る。」(イザヤ29:18-19)「悲しみを遠くへ追い払え。それは何の益にもならない。」(シラ30:21-25)

たしたちが目を覚ましているように求めます。あえて冒険するように導きます。そして、他者を見下すことを容認しません<sup>5</sup>。

思いやりは、わたしたちをもっとも貧しい人々、絶望している人々、子どもたちの苦しみに目覚めさせます。思いやりで満ちた表情や口調は、すべての人が愛されるべき存在であることを表現します<sup>6</sup>。

そうです。神は、魂の深みにある善良さの火種によって、わたしたちを前進させてくださいます。炎へと燃え上がる善良さの火種によって<sup>7</sup>。

しかし、思いやりと喜びの源泉<sup>みなもと</sup>、信頼の源泉に向かう道はどこにあるのでしょうか。

神に自らをゆだねること、そこに道があります。

長い歴史のどこでも、多くの信者たちは知っていました。祈りを通して、神は光を、内なる命をもたらししてくださることを。

キリストがお生まれになる前に、すでにある信者はこう祈っていました。「主よ、わたしの魂は夜あなたを探し、わたしの中で霊はあなたを探し求める<sup>8</sup>。」

神との交わり<sup>コミュニオン</sup>への憧<sup>あこが</sup>れは、時の始めから、人の心の中に置かれています。この交わり<sup>コミュニオン</sup>の神秘は、わたしたちの心の琴線、存在のもっとも深いところに触れるのです。

だからこそ、キリストにこう言うのです。「あなたの他に、行くところはありませぬ。あなたの言葉は、魂を生き返らせませぬ<sup>9</sup>。」

神<sup>とど</sup>の前に留まり、観想し、待ち続けること、これはけっしてわたしたちの理解を超えたことではありません。

そのように祈ることで、言葉では言い尽くせない信仰の現実<sup>リアリティ</sup>が見えてきます。言葉を超えたところにあるものによって、崇敬の心が生じます。

熱情が冷め、あらゆる共鳴が消え去ったときも、神は存在しておられます。わたしたちから神の憐れみ<sup>コンパッション</sup>が奪われることは決してありません。神がわたしたちから離れるのではありません。わたしたちが、神から離れてしまうのです。

観想のまなざしは、単純素朴なことがらに、福音のしるしを見つけます。

そのまなざしは、もっとも見捨てられた人々の中にさえ、キリストの存在を見出します<sup>10</sup>。

そのまなざしは、宇宙の中に、創造の輝ける美しさを見出すのです。

多くの人々がこう自問します。「神はわたしに何を望んでおられるのだらう。」福音書を開くとき、わたしたちは理解します。神が望んでおら

5 思いやりは、共同体の生活<sup>コミュニオン</sup>にとってこの上なく尊い。それは交わり<sup>コミュニオン</sup>の美をもっとも鮮やかに反映する。

6 とっても幼いとき子どもたちは既に、思いやりのある母親、父親、姉妹、兄弟がいるとはどういうことなのかを把握する。それは、福音の真実を明らかに示す。子どもたちにとって、自分が愛されていると知ることは非常に大切で、このことは彼らが生涯にわたって前進することを助け、自分もまた愛する者になるようにという神の招きを理解させる。

7 哲学者ポール・リクールは、テゼを訪れた際にこう語った。「善はもっとも深い悪よりもさらに深いものです。悪がいかに根強いものであろうとも、それは善ほど深い根をもつものではありません。」

8 イザヤ 26:9

9 人々がキリストから離れ始めた時、キリストは弟子たちにこう尋ねた。「あなたもわたしから離れたいのか」。ペトロは答えた。「ほかのだれのところへ行きましようか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。」(ヨハネ 6:67-68)

10 神との交わり<sup>コミュニオン</sup>を生きる人は、他者との交わり<sup>コミュニオン</sup>を生きるようになる。福音に近づけば近づくほど、わたしたちはお互いに近づく。正教会の神学者オリヴィエ・クレマンはこう記している。「祈りの人になればなるほど、責任を担う人へと変わる。祈りは、この世の働きからわたしたちを解放するのではなく、むしろより責任を担わせる。それどころか、祈ることほど責任を示すものはない。祈りは、他人から見捨てられて苦しむ人や貧しさにあえぐ人と共に歩むという、具体的なかたちをとる。テゼのブラザーたちが世界各地で貧しい人々と共に生活しているように。と同時に、祈りは、あらゆることにおいて——経済面でも、世界文明、文化の面でも——創意工夫をするようにわたしたちを招いている。」(“Taizé, A Meaning of Life”, Chicago: GIA Publications, 1997)

れることは、わたしたちがあらゆる状況において、神の現存を映し出す者になることだと。神は、わたしたちが神から託された周りの人々のために、人生を美しいものにするようにと招いておられるのです。

生涯を通して、神からのこの招きに<sup>こた</sup>応えようとする人々は、こう祈ります。

聖霊、たとえ誰一人「はい」と言い続けて生き抜くようには造られていないとしても、あなたは光の源を灯すためにわたしの内に来られます。

「はい」と「いいえ」が激しくぶつかり合うとき、あなたはわたしのためにいと疑いに光を注がれます。

聖霊、自らの限界を受け入れる勇気を、あなたは与えてくださいます。内側の弱さも、あなたの現存がそれを<sup>変容</sup>させてくださいます。

そしてわたしたちは、あえて「はい」と言うように導かれます。その「はい」は、わたしたちをはるか遠くまで運ぶのです。

その「はい」は、澄みわたった信頼。

その「はい」は、愛することの中の愛。

**キ**リストは<sup>コミュニオン</sup>交わりです。キリストが地上に来られたのは、新しい宗教を始めるためではなく、すべての人にご自分との<sup>コミュニオン</sup>交わりを差し出すためでした<sup>11</sup>。キリストの弟子たちは、人々の中で信頼と平和の質素なパン種となるようにと呼ばれています。

神は、教会という神との唯一の<sup>ユニークなコミュニオン</sup>交わりの中に、命の泉を訪れるために必要なすべてを差し出されます。福音、<sup>聖餐</sup>ユーカリスト、赦しによる平和……。そしてキリストの<sup>きよ</sup>聖さも、もはや手の届かないものではありません。ここに、わたしのすぐ近くにあるのです。

キリストが来られてから4世紀の後に、アフリカのキリスト者アウグスティヌスはこう記しています。「愛しなさい、そしてその愛を生き方によって表しなさい。」

キリスト者間の<sup>コミュニオン</sup>交わりが、理論ではなく生き方となると、それは希望の光を放ちます。さらにそれは、現代の緊急課題である世界平和への模索を支えてゆくのです。

それなのにどうして、キリスト者同士が分裂したままでいられるでしょう。

もう何年もの間、<sup>エキュメニカルな</sup>教会一致への招きは、さまざまな見解の貴重な交換を育んできました。この対話は、キリスト者間の<sup>コミュニオン</sup>生きた交わりの初穂です<sup>12</sup>。

<sup>コミュニオン</sup>交わりがすべての基本です。これは、何よりもまず、沈黙を通して、愛を通して、すべてのキリスト者の心の中心に生まれます<sup>13</sup>。

キリスト者の長い歴史の中で、実に多くの人々は、分裂の理由さえ知

11 ドイツの神学者ディートリッヒ・ボンヘッフアーは21歳のとき、「教会として存在するキリスト」という表現を生み出した。「キリストのうちにある、人類は神との<sup>コミュニオン</sup>交わりの中に導き入れられるのです」(『聖徒の交わり』ベルリン、1930)。

12 教会の<sup>エキュメニカルな</sup>一致への招きに関して、アンティオキアの総主教イグナティオス4世は、最近ダマスカスからこう記している。「表面的なあの手この手で模索するエキュメニズムは立ち往生してしまうのではないのでしょうか。今、そんな状況から抜け出すために緊急に必要なのは、預言的な新しい出発です。諸教会が赦し合い回心できるように助けてくれる預言者や聖人がわたしたちには必要なのです。」大主教はさらに、「法律の言葉ではなくて、<sup>コミュニオン</sup>交わりの言葉を大切にするように」と呼びかけている。去年、ヨハネ・パウロ2世は、ギリシャ正教会の指導者たちをローマに迎え入れたとき、こう語った。「聖人たちと共に、完全な一致の<sup>コミュニオン</sup>交わりへとわたしたちを導く聖性のエキュメニズムを祈るのです。それは、同化でも融合でもなく、真実と愛のうちにある出会いです。」

13 和解は、今というこのときに、一人一人の内側で始まる。キリスト者の中でそれが息づくとき、はじめて和解の真実さは人々に伝わる。そのとき人々は、愛の<sup>コミュニオン</sup>交わり 教会 の和解の息吹きへと導かれてゆく。この歩みの前提は、誰をもけって見下げないということ。

らずに、気づいたらすでにその分裂の状況に置かれていました。今日重要なことは、わたしたちが力の限りあらゆる努力をして、一人でも多くのキリスト者が そのほとんどは分裂に責任のない人々が 自分たちは コミュニオン 交わりの中に生きていくと知ることになることです<sup>14</sup>。

無数の人々が、魂のもっとも深いところに触れる和解に 憧 れています。尽きることのない喜びを切望しています。その喜びとは、一つの愛、一つの心、一つの同じ交わり<sup>15</sup>。

聖霊、来てください。心の中に一つの交わりへと進んでゆく強い願望を植えつけてください。あなたこそわたしたちをそこに導かれる方。

**復**活された日の夕方、イエスは、エマオへ向かう二人の弟子たちと歩いておられました。しかし、弟子たちは、イエスが共に歩いておられることに気づきませんでした<sup>16</sup>。

わたしたちもまた、気づかないときがあります。聖霊によって、キリストがいつもそばに留まっておられることに。

キリストは、疲れることなく、わたしたちと一緒に歩いてくださいます。そしてキリストは、予期せぬ光でわたしたちの魂を照らします。そしてわたしたちは気づくのです。闇がいまだに内側に広がっているときでさえ、一人一人の中にキリストの現存の神秘が宿っておられることに。

いつもよりどころにしていいことが一つあります。それは、キリストが一人一人にこう告げておられるということ。「わたしは、尽きることのない愛であなたを愛している。あなたから離れ去ることはけっしてない。聖霊によって、わたしはいつもあなたと共にいる<sup>17</sup>。」

14 教会がその大きな開放性を人々に示すことが出来ないだろうか。過去に分裂していたキリスト者がもう分離をやめ、すでに一つの交わりを生きることが人々に明らかに伝わる、そのような開放性を示すことができないだろうか。和解への重要な一歩は、世界のいろいろな場所ですすでに現実となっている分裂を超えた交わりを明確に認めるときに達成される。このことを認め、必要な結論を出すには勇気が必要だろう。和解のための声明文は後から来るもの。声明文だけに重きを置くのは、「今すぐ和解しなさい」という福音の招きを見失うことにならないだろうか。

15 フィリピ 2:2 参照

16 ルカ 24:13-35 参照

17 エレミア 31:3 ヨハネ 14:16-18 参照

---

## テゼ共同体についての問い合わせ:

### Taizé Community

71250 Cluny FRANCE

Tel:(+33)385-50-30-30

Fax:(+33)385-50-30-15

E-mail:community@taize.fr

Web:http://www.taize.fr ウェブサイトの中には、日本での連絡先などが含まれています。